

令和 7 年 11 月 8 日 SDGs 中学生議会 質問・答弁記録

【第 4 地区】

<質問・提案>

中学生議員（1人目）

これから第4地区の質問を始めます。

私たちの小岩地区の中学校では、部活動の大会や演習のためにスポーツセンターを利用することがあります。現在の小岩地区にはスポーツ施設が少なく、遠くの施設まで行かなければならぬことが多いです。小岩地区から葛西地区へ移動する際の交通手段が限られているため、負担がより一層大きくなっています。

部活動などで使用できるスポーツセンターや運動施設が少ない小岩地区に、これらを整備することで、青少年の健康づくり、多世代間の交流、お年寄りの生きがいづくり、地域健康水準の向上、コミュニティの活性化など、大きな役割を果たすことができると考えます。また、小岩地区には、使われていない空き地や施設の老朽化も見られます。

地域の人々が気軽にスポーツに親しめる場づくりの確保、充実化、併せて施設のバリアフリー化の向上が必要であると考えます。

これらのスペースを再利用して、私たち中学生だけではなく、地域の皆さんのが気軽にスポーツを楽しめる場所を整備することは可能だと思います。施策として、学校体育施設の開放・複合化の促進、オープンスペースなどの有効活用の推進が挙げられます。

つきましては、小岩地区に新たなスポーツセンターを設置することは可能でしょうか。

<答弁>

斎藤区長

それでは第4地区の皆さんのご質問にお答えをしてまいります。

まず、小岩地区のスポーツ環境についてですが、普段から皆さんの大会や演習のために遠くに行かなければならぬ不便さ、小岩から葛西だと確かに遠いですよね。交通手段も限られているということで、大きな負担をおかけしていると思っています。

江戸川区では、今、「文化・スポーツ基本構想」という計画をつくっておりまして、誰もが、身近で、気軽に文化やスポーツを楽しめるまちを目指しています。

この構想では、地域のバランスを考えながら、どの地区にどのような機能を持った施設が必要かということを記載しています。

ただ、新しい施設整備には、用地を確保しなければならない、また、建設コストの問題、様々な課題があります。そこで、そういった新しい施設もそうなんんですけど、今ある施設をうまく活用できないかということも検討をしております。

また、将来に向けてですが、プロのチームが使ったり、大規模なイベントができるような、多くの客席を備えたアリーナ、みなさんが日頃の活動の発表、大会などで使えるような施設、そういった整備も検討をしております。

今すぐに新しいスポーツ施設が整備、誕生するということは難しいかもしれません、みなさんの身近にある施設をうまく活用しながら、遠くまで行かなくても地域でスポーツができる施設を増やしていきたいと思っています。

スポーツは体を鍛えるだけではなくて、人との新たな繋がりが生まれたり、まちを元気にする力があると思っています。これからもみなさんのご意見を聞きながら、「江戸川区には身近な場所でスポーツができる環境がある」と言っていただけるような環境整備に努めてまいります。

<質問・提案>

中学生議員（2人目）

私は現在バスケ部に所属しています。部活のみんなで協力をしてバスケットボールが強くなるように部活時間以外でも日々練習しています。

しかし、みんなでバスケの練習をしようとしても近くですぐにバスケットボールを室内でできる場所が少なく困っています。学校の部活動がない時間でも簡単にバスの練習をしたり、シュートの練習をしたり、みんなで試合ができたりする施設が近くに欲しいという声を部活の仲間から聞きました。

そこで私から提案です。例えば、卓球ができる場所がスポーツセンターなどに多いので、卓球のスペースをバスケットボールができる場所に変える。卓球ができる場所はたくさんあるのに、なぜバスケットができる場所は少ないのでしょうか。次にスポーツセンターにあるバスケットボールコートを利用できる時間が少ないのでもっと長い時間利用できるようになります。最後に公園などにバスケットボールコートを設置する。

実際に今、例として言った3つを実現させることは可能でしょうか。

<答弁>

齊藤区長

続きまして、質問にお答えをいたします。

バスケ部のみなさんが、部活動に熱心に取り組まれていることだけではなくて、学校外での自主的な一生懸命に励む姿勢、その向上心、とても素晴らしいと思っておりますし、そこを応援していかなければと思っています。

ご提案のとおり、バスケットボールは室内での練習が基本となるために、十分な練習場所の確保は必要なことだと思っています。特に、部活動の時間以外でも気軽に練習できる環境

があることは、みなさんの技術の向上や、仲間との絆を深めるためにも大切だと思っています。

スポーツは、みなさんの体と心の成長にとっても、とても大切で、健康的な生活習慣を身につけたり、困難を乗り越える精神力を養ったりと重要なものだと思っています。そのための環境を整えることは、私たちの大切な仕事だとも思っています。

ご提案いただきました、スポーツセンターをもっと使いやすくすることや、利用時間を見直すことについては、現在、施設の運営状況、利用者のニーズを確認して、より多くの方に利用していただけるような方法を検討してまいります。

また、バスケットボールができる環境の充実につきましては、屋内ではなくて屋外になってしまふんですが、高速道路の下、屋根があるような環境にはなるかもしれませんけど、屋外ですけども、そういったところを活用したり、公園整備の際にゴールを配備するなどの整備を進めておりまして、これもみなさんの声をよく伺いながら、増やしていくべきだと思います。

練習環境の充実につきましては、今回いただいた意見、ご提案を参考に、関係部署と連携をしながら、誰もが身近な場所でスポーツを親しむことができるよう検討してまいります。

<質問・提案>

中学生議員（3人目）

私たちのような中学生や小学生などは夏休みにプールに行って遊ぶことがあります。しかし、この小岩地区周辺にはみんなが遊べるようなプール施設がありません。そのため、プールに行くためには遠くまで移動しなければなりません。アクセスも困難です。

例えば、お隣の江東区のプール施設は江戸川区よりも多いです。江東区の子どもの人数よりも江戸川区の子どもの人数の方がが多いにもかかわらず、プールの数は江戸川区の方が少ないのです。

このままでは、「子育てをするなら江戸川区」の魅力が減ってしまい、江東区などの近くのまちに引っ越してしまう方々も増えるのではないかでしょうか。それらを防ぐために、例えば区内の学校のプールを夏休み中は開放するという方法はいかがでしょうか。また、小岩にある空き地などの使われていない場所にプールをつくるという方法もあります。小岩周辺にプール施設を増やせば、中学生だけではなく、幅広い年代の方々にとって健康のために体を動かせる場所になると思います。

小岩地区の学校にあるプールの開放、そして新しいプール施設についてお答えお願いし

ます。

<答弁>

斎藤区長

続いてのご質問にお答えします。

プールについての質問です。みなさんが安全で楽しく水に親しめる環境、これは健康づくりや体力の向上のためにも大切だと思っています。そして、またご提案のように、プールは、様々な世代の方々の健康づくりにも役立つ施設だと思っています。

最近では、夏の厳しい暑さの影響で、暑いがゆえに屋外でのプールの利用ができない、水泳に親しめないという状況にもなってきています。そのため、今、区では夏の時期だけではなくて、一年を通して、皆さんに使っていただけるような屋内の温水プールの整備、これをていきたいと考えています。

現在、区では「公共施設の再編整備計画」や「学校プール整備方針」に基づいて、今後のプールの整備について検討をしています。老朽化した施設の建て替え、また、学校改築の際には、近隣の学校と共同で利用ができるような屋内温水プールの設置や、空いてるときは地域のみなさんが利用していただけるような環境も検討しています。

プールの施設は、単に泳ぐ場所ということだけではなくて、健康づくり、体力の向上、そして災害時のときに自分自身の命を守る、泳ぐ力を身に着けることができる場所でもあります。

今回、いただいた貴重なご意見も踏まえ、誰もが安全に、身近な場所で気軽に水に親しめる環境づくりを進めてまいります。

<質問・提案>

中学生議員（4人目）

私たちは日々共育プラザで色々な遊びができたりコミュニケーション能力が高まったりなど、とてもいい場所です。

しかし、時折思うことが入館時のカードの提示と退館時に名前を言って退館する手間がかかることについて、すごく大変だなと思うことがあります。

実際に現場に行き様々な方に話を聞きました。そうしたら特に未就学児のお子様連れの親御さんがカードの提示の時に少し大変と言っておりました。さらに退館時も知らない人は名前を言わずに退館してしまう人もいるという問題が起きています。これはどの館でも

同じことが起きているのではないかと思います。

そこで私は、毎回カードの提示をしたり、名前を言ったりしなくてもいいような状況にしたらいいのではと考えました。それは入退館時にデジタルでスキャンする方法がいいのではと思いました。

共育プラザの利用のしやすさや職員の仕事の効率を上げるためにもデジタルスキャンの導入は可能でしょうか。

<答弁>

齊藤区長

続きましてのご質問にお答えをします。

共育プラザは、ご質問にもありましたとおり、中高生の活動支援、そして、子育て支援、世代間の交流を通じて青少年の健全育成を図る場として、区内に 7 館設置をしています。地域の方々が共に学び育ち合う「第三の居場所」、学校・地域のほかに「第三の居場所」として、子どもから大人まで多くの皆さんにも親しんでいただいているいます。

共育プラザでは、入館時に登録カードを提示していただいて、職員が受付をしています。このカードの提示なんですけれども、入館時の記録のためだけではなくて、職員と利用者の皆さんが顔を合わせて、あいさつとか、声をかけ合う中で、安心して過ごせる雰囲気を育む大切な機会にしているところでもあります。

一方で、お話をありましたようにカードの提示・記録には、利用される方にとって手間がかかるという面もあります。

ご質問いただきましたので、今後は、利用状況を確認しながら、デジタルスキャンの導入や登録カードそのものの必要性、そういったものもですね、利用者の皆さんにとって、より良い方法は何かという検討をしてまいります。

これからも共育プラザが、人と人との繋がりを大切にしながら、皆さんにとって安心できる場所となるように努めてまいります。

<質問・提案>

中学生議員（5人目）

私からは、老朽化した建物を改装するときの提案です。

小さい子から大人まで様々な年代の方が訪れる共育プラザは、長い間改装されていません。今のままでも、すぐ困ることはありませんが、改装して綺麗にし、もっと使いやすくす

れば利用者がさらに過ごしやすくなるのではないかと思います。

そこで私は、改裝する際に考えていただきたい内容をお伝えしたいと思います。

まず、1つ目の提案です。エレベーターを設置してください。小さなお子様がいる保護者の方たちは、荷物やお子様を抱いたまま上がることが大変だと思います。設置することで、もしベビーカーで来た場合はお子さんを乗せたまま移動することもできます。そして、エレベーターを設置してくださるのではあれば、ベビーカーを置いておける場所を同じ階に作ってくださるとありがとうございます。

2つ目の提案です。各フロアに移動するためのスロープを設置してください。スロープをつくることにより車椅子など障害のある人や、エレベーターが混んでいる場合ベビーカーで来た方も利用することができます。さらに階段を登ることが辛い人であっても簡単に移動することができます。

他にも、普段利用しているお母様たちからは、飲食スペースの充実や小さい子がゆっくり食べられて過ごしやすい広い場所の設置など、より行きたくなる空間にできるような提案があります。これらはまだまだ一部の人の思いにすぎません。

ですので、改裝する際には、普段利用している方々からの意見を取り入れていただきたいので、意見収集箱を設置していただきたいです。

<答弁>

斎藤区長

続きましての質問にお答えをしてまいります。

共育プラザでは、地域の子どもたちが放課後や休日に安心して過ごすことができる第三の居場所として、多くの方に利用いただいている。

しかし、開設から年数が経っていることもありまして、建物の老朽化、また、使いづらさといった課題も生じています。こうした状況を踏まえまして、江戸川区では、誰もが安心して利用できる施設を目指し検討を進めています。

共育プラザにつきましても、子どもたちの活動支援に加えて、地域の交流の拠点として位置づけておりまして、今後は、ご質問のとおり、多世代が利用できるユニバーサルデザイン施設への転換を図っていく方針です。

改修の際には、段差をなくすスロープ、エレベーター、車いす対応トイレの設置、案内サインの改良などの整備を進めていきます。

同時に、太陽光発電の設備、LED の照明、省エネルギー型の空調などの導入によりまして、環境に配慮した施設を目指してまいります。

さらに、工事の前には、ご迷惑をおかけしますので、利用者や地域の方々のご意見もお伺いしながら、施設整備に反映していきたいと思っています。

共育プラザは、地域のお子さん、家庭、障害のある方など、あらゆる人が「ここに来ると

安心できる」と「楽しい」と言っていただけのような場所であり続けることが大切だと思っています。そのための施設整備に計画的に取り組んでまいります。

中学生議員（6人目）

現在、中学校では数多くの生徒が部活動に所属し、日々互いに高め合っています。私の身の回りでも部活を楽しんでいるという声をよく耳にします。

しかしその一方で、このような話も耳にしました。私の友人が部活の顧問に、部活での役職を辞めるか、部活動そのものを辞めるかを選べと言われたそうです。また、最終下校時刻後も叱責が続き、最終的に他の先生が来たことで解決されたことがあるとも話していました。

もちろん一部ではありますが、このような現状について、私は生徒たちが教師の私的なストレスの吐口になってしまっていると感じています。ですが、部活指導は実質的なサービス残業であり、教師の仕事において負担やストレスの大きな原因になっていることもまた事実です。

そこで私は、現状を変えるために部活指導の負担を減らし、先生方のやる気を上げる施策が必要だと考えました。例えば、部活指導の特別な手当をつけたり、休日に部活がある場合はその分の休暇を別日に支給したりなどです。

適切な部活指導を行い、私たちを守るためにも、やりがい搾取ともいえる現状を変えるためにも、金銭面、休日面での補助やそれらに関するルールづくりは可能でしょうか。

<答弁>

斎藤区長

部活指導につきましては教育長から、教職員のアンケートにつきましても教育長からお答えをしてまいります。

内野教育長

質問にお答えいたします。

まず、部活動における教員の指導については、教員は、生徒の皆さんとの気持ちに寄り添い、活動への意欲をもたせるようにしなくてはなりません。教員の不適切な対応によって、生徒の皆さんの心が傷つくことがないように、そのようなことはないように、あってはならない

こととして、取り組んでまいりたいと思います。

教育委員会としては、部活動の様子を見せていただいたり、校長先生に話を伺ったりしながら、生徒の皆さんのが意欲をもって部活動に取り組めるようにしてまいります。

また、OECD（経済協力開発機構）の調査によると、日本の教員は、加盟国の中でも最も勤務時間が長く、その原因の一つとして課外活動、いわゆる部活動の指導が挙げられております。教員が生徒の皆さんに対して、毎日より良い指導を行うためにも、教員自身が心身共に健康でなくてはなりません。

皆さんも「部活動地域移行」という言葉を聞いたことがあるかもしれません、現在、本区においても今後の部活動の在り方について議論を進めているところでございます。

具体的には、スポーツ協会や様々な連盟と連携し、教員だけではなく、地域人材や外部人材を活用した部活動を進めたりしている例もあります。例えば、小岩第二中学校を拠点とした剣道の合同部活動では、小岩地域の剣道部が休日に合同で練習を行いました。江戸川区の剣道連盟からは、複数名の指導者が来て生徒の皆さんに指導を行い、大変充実した活動となつたとの声を伺っております。

教員の部活動の負担を減らしていくだけではなく、地域や外部人材の専門性を活かし、生徒の皆さんにとって意欲的に活動できる部活動を目指して、さらに仕組みを整えたり、人材の確保に努めたりしてまいります。

<質問・提案>

中学生議員（7人目）

私たちは、日々学校で学習できることを楽しみにしています。

しかし、時折自身の学校や他の学校でも、一部の先生が授業放棄とも言える状況になっているということを聞きます。

例えば、教科によって授業の大半が雑談のようなものになっている。また、部活指導の時間に顧問の先生が寝てしまっているなどといった、子どもを守る教職員、大人として、危機的状況になりかけていると感じます。

そのような状況を改善するため、教育委員会での先生方の管理について質問です。一部の先生が授業放棄をしているとも受け取れる今、各学校の非常勤講師を含む全ての教職員にアンケートの実施などをを行い、教育委員会でもどのような状況なのかを把握することはできるのか。また現段階で行っているのであれば、さらに詳しく調査することは可能でしょうか。以上です。

<答弁>

内野教育長

続いての質問についてお答えいたします。

ご指摘いただいた望ましくない教員の姿をお伺いしまして、生徒の皆さんのが日々真剣に学び、部活動に取り組んでいる中で、教員の言動によって活動の意欲が損なわれることは、あってはならないことであると思っています。

今後、全ての校長先生が一堂に集まる会議などを通して、今回ご指摘いただいた内容を伝えると共に、今一度、各学校において授業や部活動などの指導をしっかり取り組むことを確認してまいります。

学校という場所は、同年代の子どもたち同士や、また、子どもと教員の「出会いの場」であるとも考えています。子どもたちに身近で、親身になって寄り添ってくれる教員と子どもたちが、共に学び、成長していく場所であり続けるため、教育委員会としても学校を支援してまいります。

具体的には、教師の授業力や人間性を高める研修の充実や、子どもたちの心を育める教師としての力を身に付けられるよう、積極的に取り組んでまいります。教員の資質・能力の向上は、学校教育の質を高めるために欠かせないことですので、より一層、取り組みを進めてまいります。

生徒の皆さんのが、学校における教育環境の改善にとって、とても大切なことです。今回のように率直な意見を届けていただいたことは、私たちにとって大変貴重であり、感謝を申し上げます。今後も皆さんの意見を真摯に受け止め、より良い学校づくりに努めてまいります。